

## 食品安全関係情報( 11月30日～12月13日 収集分※)について

「食品安全関係情報」として食品安全委員会が収集したハザード毎の地域別情報件数の概要

(集計数は、今回/前回)

11月30日～12月13日 収集件数 (合計84/96件) (前回 11月16日～11月29日)		国際機関	北米		欧州		大洋州	アジア		中南米等	その他
		WHO・FAO等 (1/4件)	米国 (6/7件)	カナダ (1/2件)	EU、EFSA (23/25件)	各国 (16/11件)	FSANZ等 (8/2件)	中国 (9/12件)	各国 (3/6件)	各国 (0/0件)	報道、論文等も含む (17/27件)
化学物質 (35/40件)	化学物質・汚染物質 (9件)	0	1	1	2	3	0	0	0	0	2
	食品添加物 (11)	0	0	0	7	2	2	0	0	0	0
	農薬 (7)	0	4	0	1	0	0	1	1	0	0
	動物用医薬品 (3)	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0
	器具・容器包装 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他 (4)	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1
微生物・プリオン・自然毒 (28/32件)	細菌 (7件)	0	0	0	2	1	0	0	0	0	4
	ウイルス (5)	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
	原虫・寄生虫 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	プリオン (6)	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0
	植物性自然毒 (1)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	カビ毒(マイコトキシン) (3)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	動物性自然毒 (1)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
その他 (5)	0	0	0	2	2	0	0	0	0	1	
新食品等 (5/12件)	新食品 (1件)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	GMO (3)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	健康食品 (1)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	アレルギー (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クローン (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	放射線照射 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ナノテクノロジー (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
肥料・飼料等 (2/0件)	肥料 (0件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	飼料 (2)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他 (13/12件)	表示 (0件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	放射性物質 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他 (13)	0	0	0	3	2	4	3	0	0	1
海外の食中毒 (1/0件)	細菌 (1件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	ウイルス (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海外のリコール (0/0件)	化学物質 (0件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	微生物 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	異物混入等 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	表示違反 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※収集期間については、主たる期間をいう。

## 食品安全関係情報(11月30日～12月13日収集分84件)のうち、主なものの紹介

(詳細及び他の情報については、食品安全総合情報システム(<http://www.fsc.go.jp/fsciis/>)をご覧ください)

### 【化学物質】

- ・米国環境保護庁(EPA)、妊娠可能年齢の女性における血中の水銀濃度が34%低下したこと及び魚類の選択に関してより多くの情報が提供されていることが示唆された旨を公表
- ・ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)、コーヒーメーカー及びエスプレッソマシンからの鉛の溶出に関する意見書を公表
- ・フランス競争・消費・不正抑止総局(DGCCRF)、食品のアクリルアミドに関する調査報告書を発表
- ・欧州食品安全機関(EFSA)、食品中の残留農薬の累積リスク評価における異なる作用機序の関連性及びその適切な適用法に関する科学的意見書を公表
- ・欧州食品安全機関(EFSA)、アスパルテームに関する全面リスク評価を完了しアスパルテームは現在の暴露量で安全である、と結論づけたことを報道発表
- ・米国食品医薬品庁(FDA)、エストロゲン活性データベース(EADB)の構築を公表

### 【微生物・プリオン・自然毒】

- ・欧州食品安全機関(EFSA)及び欧州疾病予防管理センター(ECDC)、*Salmonella* Mikawasima 感染者の異常な増加に関する科学報告書を公表
- ・Eurosurveillance:「2013年6～10月にイングランドで発生したウェルク摂取に関連する *Salmonella* Goldcoast 集団感染症」
- ・英国動物衛生獣医学研究所(AHVLA)、11月30日時点での英国におけるBSEサーベイランス結果を公表(2013年:3頭目)
- ・アイルランド農業・食料・海洋省(DAFM)、輸出業者に向けた対日輸出用牛肉及び牛臓器に関する注意事項を公表
- ・スペイン農業食料環境省(MAGRAMA)、スペインにおける伝達性海綿状脳症(TSE)に関する疫学報告書を公表(2011年、2012年)
- ・国際連合食糧農業機関(FAO)、カビ毒のサンプリングツール(Version 1.0)が開発された旨を公表

### 【その他】

- ・ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)、「欧州連合(EU)食品安全年鑑」の第3版を発行

## 食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

### ○遺伝子組換え食品

#### オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関(FSANZ)、「Séralini 論文への対応」と題する消費者向け情報を公表

公表日：2013年11月29日 情報源：オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関 (FSANZ)

<http://www.foodstandards.gov.au/consumer/gmfood/seralini/Pages/default.aspx>

オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関(FSANZ)は、「Séralini 論文への対応」と題する消費者情報を公表した。概要は以下のとおり。

1. 2012年9月に、Gilles Eric Séralini 教授及び共著者は Food and Chemical Toxicology 誌に研究論文を発表した。2013年11月29日、Food and Chemical Toxicology 誌は、この論文の撤回について、次のように述べている。

Food and Chemical Toxicology 誌は、2012年11月に掲載された論文「ラウンドアップ除草剤及びラウンドアップ除草剤耐性遺伝子組換えトウモロコシの長期毒性」を撤回する。この撤回は、当該論文の査読者に対する調査に加えて論文の記載内容及びデータを綿密かつ時間をかけて分析した結果行われたものである。編集長は、この調査が完了し、著者らに通知するまでこの論文に関する公の発言を控えていた。

2. FSANZ は、2012年12月に当該研究への対応を公表した。概要は以下のとおりである。

Gilles Eric Séralini 教授及び共著者は2012年9月、遺伝子組換えトウモロコシ NK603 及び/又はラウンドアップ(グリホサート)を給与された実験用ラットの寿命が短くなることを示唆する研究を発表した。本研究の方法論及び解釈上に多くの疑問点が存在するために、報告された研究結果及び研究結果から導かれた結論の妥当性には限界がある。2012年10月にFSANZ は、著者らに対してオリジナルのデータを提供することを要求した。しかし、Gilles Eric Séralini 教授及び共著者は提出しなかった。当該研究において確認された多くの科学的欠陥に基づき、FSANZ は著者らの結論を認めておらず、NK603 の安全性を再評価する正当な理由とはならないと結論付けた。

### ○関連情報

#### 1. 当該論文のレビュー

食品安全委員会、ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)、カナダ保健省及び欧州食品安全機関(EFSA)は、当該論文のレビューを行っており、いずれの機関も当該論文の結論を否定している。

(1) 食品安全委員会：2012年11月12日 公表 <http://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20121112sfc>

(2) ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)：2012年10月1日 公表

[http://www.bfr.bund.de/en/press\\_information/2012/29/a\\_study\\_of\\_the\\_university\\_of\\_caen\\_neither\\_constitutes\\_a\\_reason\\_for\\_a\\_re\\_evaluation\\_of\\_genetically\\_modified\\_nk603\\_maize\\_nor\\_does\\_it\\_affect\\_the\\_renewal\\_of\\_the\\_glyphosate\\_approval-131739.html](http://www.bfr.bund.de/en/press_information/2012/29/a_study_of_the_university_of_caen_neither_constitutes_a_reason_for_a_re_evaluation_of_genetically_modified_nk603_maize_nor_does_it_affect_the_renewal_of_the_glyphosate_approval-131739.html)

(3) カナダ保健省：2012年10月25日 公表 <http://www.hc-sc.gc.ca/fn-an/gmf-agm/seralini-eng.php>

(4) 欧州食品安全機関(EFSA)：2012年11月28日 公表 <http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/121128.htm>

#### 2. 当該論文の撤回に関する記事

(1) 食品安全委員会メールマガジン 349号：2013年12月17日配信

お知らせ(遺伝子組換えトウモロコシ NK603 系統の毒性発現に関するセラリーニ論文取り消しについて)

[http://www.fsc.go.jp/sonota/e-mailmagazine/e-mailmagazine\\_349.html](http://www.fsc.go.jp/sonota/e-mailmagazine/e-mailmagazine_349.html)

(2) Elsevier (Food and Chemical Toxicology 誌の出版元)：2013年11月28日付け記事

<http://www.elsevier.com/about/press-releases/research-and-journals/elsevier-announces-article-retraction-from-journal-food-and-chemical-toxicology>

(3) Nature 誌：2013年11月28日付け記事

<http://www.nature.com/news/study-linking-gm-maize-to-rat-tumours-is-retracted-1.14268>

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム (<http://www.fsc.go.jp/fsciis/>) をご覧下さい。